

## 組織目標評価報告書（令和5年度）

13

部局名：

歯学部

学域名：

医歯薬学域(歯)

部局長名：

大原 直也

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(2-1) (2-2) (7-1)	<p>・歯科医師国家試験受験については年度当初から対策に取り組み、<u>新卒では96%の合格率で、国公立を含めた全国2位、新卒出願者数に対する合格者数では全国1位と高い合格率を達成した。</u></p> <p>・公益財団法人大学基準協会による歯学教育評価を受審し、書類調査、現地調査ともに<u>是正勧告はなく、「適合」との評価を得た。</u></p> <p>・学生の国際交流では、<u>歯学部生の海外派遣者数14人、海外協定校からの受入れ学生数38名</u>であり、派遣者数8人、受入れ者数21名であった昨年度の実績を大きく上回った。</p> <p>・入学試験における志願者数は延べ127人で、募集人員の2.66倍にとどまったが、<u>学校推薦型選抜の志願者数は4.1倍</u>で、昨年よりも大きく上昇した。志願者の動向の分析と志願者及び合格者の成績の分析を行う。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(1-1) (6-1) (7-1) (14-1)	<p>・リカレント教育を、さらに充実させるため、受講生のニーズに指向させる。</p> <p>・海外との協力体制強化のため、海外歯学部との協定を進める。</p> <p>・学外のステークホルダーとの連携を強化するために、歯学部の構成員と学外研究者や地域の医療関係者等が共創できる場を歯学部棟内に創出する。</p> <p>・地域に対する社会貢献の実施体制を発展させるため、歯科医師会、同窓会、行政等との連携を拡大・強化する。</p> <p>・リカレント教育においてはステークホルダーのひとつである歯学部同窓会に意見を求め、プログラムの組み方を変更した。</p> <p>・海外の歯学部との国際協定締結を積極的に進め、今年度は新たに2校と締結を終え、3校との間で締結に向けて進行中である。</p> <p>・歯学部棟の改修工事が終了し、社会連携室、ソーシャルcommons、国際共同研究センター、オープンラボ等を設けてこれまでになかった歯学系構成員と海外からの訪問者を含めた学外者との共創の場を新たに設けた。</p>
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	(11-2) (9-2) (12-1) (12-2)	<p>・構成員のモチベーションを高め、一体化を図るためにFD・SDを充実させ、構成員における組織計画等の情報の共有をさらに高める。</p> <p>・歯学部棟改修工事が今年度で終了することに伴い、共用部分の運営方針を策定する。</p> <p>・研究力増加のため、共同実験室共用機器等の整理を行う。</p> <p>・適切な運営を行うために基幹教員の確保を行う。</p> <p>・令和6年度からの共用試験公的化に対応するため、実施体制を整える。</p> <p>・リカレント教育においてはステークホルダーのひとつである歯学部同窓会に意見を求め、プログラムの組み方を変更した。</p> <p>・歯学部棟の改修工事が終了し、歯学部共有部分運用検討ワーキングを立ち上げ、共用部分の運用方針を策定した。</p> <p>共同実験室と共用機器等を歯学部棟10階に集約した。また各階の共通実験室であるリサーチスペースを整備した。</p> <p>・共用試験公的化に向け、特にOSCEに対する態勢整備に注力した。OSCE認定模擬患者の育成では、8人が認定された。また臨床実習前OSCE評価者認定講習会には73名が令和6年4月に参加予定であり、実施体制は整備されている。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。